

## 国内自転車生産・輸出入状況（平成25年1～3月）

### 1. 我が国の自転車生産

経済産業省生産動態統計調査によると、平成25年1～3月の我が国の完成自転車生産台数は260,751台、完成自転車生産金額は113億400万円であった。これらを前年同期と比較すると、生産台数は15.5%減、金額は10.9%減となっている。一方で平成25年1～3月の完成自転車生産平均単価は43,352円となっており、前年同期の41,138円から5.4%上昇した。この模様を表1に示す。

表1 平成25年1～3月の我が国自転車生産

	総台数	総生産金額(百万円)	平均単価(円)
平成25年1～3月	260,751	11,304	43,352
平成24年1～3月	308,426	12,688	41,138
変化	-47,675	-1,384	2,214
変化%	-15.5%	-10.9%	5.4%

出典：経済産業省生産動態統計調査、分析：一般財団法人自転車産業振興協会

平成25年1～3月の車種別の生産状況を前年同期と比較したものが表2である。「軽快車」が台数で27.6%、金額で21.5%と大きく減少したほか、「電動アシスト車」も台数・金額とも減少を示している。一方で「その他」のものは前年同期に比べ台数・金額とも増加している。

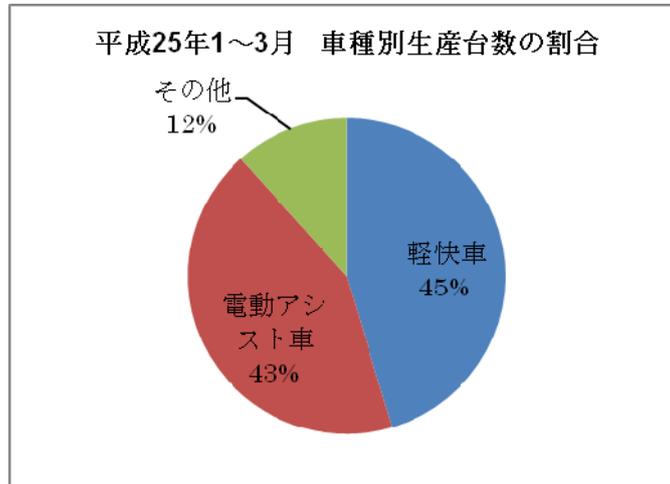
表2 車種別生産状況 平成25年1～3月と平成24年1～3月との比較

1～3月	平成25年		平成24年		変化			
	台数	金額 (百万円)	台数	金額 (百万円)	台数	%	金額 (百万円)	%
軽快車	118,314	2,819	163,516	3,589	-45,202	-27.6	-770	-21.5
電動 アシスト車	112,174	7,708	116,341	8,368	-4,167	-3.6	-660	-7.9
その他	30,263	779	28,569	731	1,694	5.9	48	6.6
計	260,751	11,304	308,426	12,688	-47,675	-15.5	-1,384	-10.9

出典：経済産業省生産動態統計調査、分析：一般財団法人自転車産業振興協会  
 尚、四捨五入の関係で合計が一部合致しない。

表2を基に平成25年1～3月の車種別の生産台数の割合をグラフで示したものが図Aである。「軽快車」が平成25年1～3月の生産台数の45%、「電動アシスト車」が43%を占めていることがわかる。

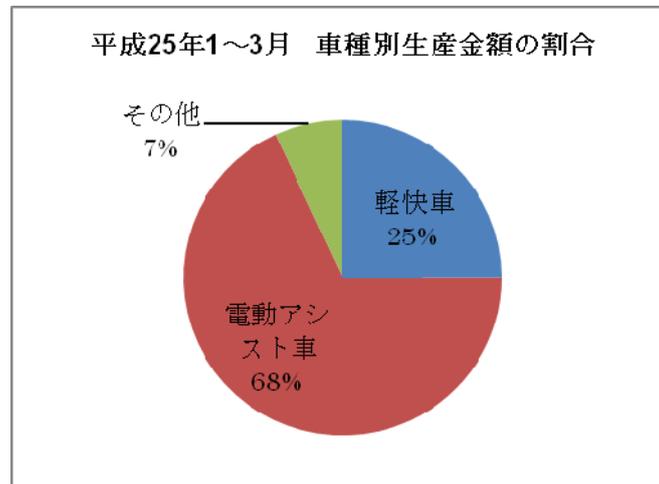
図A



出典：経済産業省生産動態統計調査、分析：一般財団法人自転車産業振興協会

また同様に、表2を基に平成25年1～3月の車種別の生産金額の割合をグラフで示したものが図Bである。「電動アシスト車」が68%を占めている。

図B



出典：経済産業省生産動態統計調査、分析：一般財団法人自転車産業振興協会

次に車種別の生産平均単価について、平成25年1～3月と平成24年1～3月とを比較したものを表3に示す。3つの車種区分の中で「電動アシスト車」の平均単価だけが前年同期と比較し下落している事がわかる。

表3 車種別生産平均単価 平成25年1～3月と平成24年1～3月との比較

車種	平成25年1～3月 平均単価(円)	平成24年1～3月 平均単価(円)	変化(円)	変化(%)
軽快車	23,826	21,949	1,877	8.6
電動アシスト車	68,715	71,926	-3,211	-4.5
その他	25,741	25,587	154	0.6
計	43,352	41,138	2,214	5.4

出典：経済産業省生産動態統計調査、分析：一般財団法人自転車産業振興協会

前回報告した1月時点では「電動アシスト車」の生産平均単価は前年同月と比較し上昇していたため、月毎の「電動アシスト車」の生産台数・金額・平均単価を調べてみると表4の通りとなる。平成25年2月の「電動アシスト車」の生産平均単価は60,503円と、他の月に比べると低さが際立っており、これが本年1～3月の生産平均単価の前年同期に比べた下落へとつながっている事がわかる。

表4 「電動アシスト車」の月毎の生産状況 平成25年と平成24年との比較

	平成25年			平成24年			平均単価 の変化 (円)
	生産台数 (台)	生産金額 (百万円)	平均単価(円)	生産台数(台)	生産金額 (百万円)	平均単価 (円)	
1月	33,738	2,476	73,389	35,535	2,501	70,381	3008
2月	35,833	2,168	60,503	40,781	3,003	73,637	-13,134
3月	42,603	3,064	71,920	40,025	2,864	71,555	365
1～3月	112,174	7,708	68,715	116,341	8,368	71,926	-3,211

出典：経済産業省生産動態統計調査、分析：一般財団法人自転車産業振興協会

## 2. 我が国自転車生産企業の総合的な生産・出荷・在庫状況

平成25年1～3月における、「生産」、「受入」、「出荷(販売及びその他)」、そして「月末在庫」も含んだ総合的な生産・販売状況について、前年同期と比較したものが表5である。

表5 我が国自転車生産企業の生産・出荷・在庫状況  
平成25年1～3月と平成24年1～3月との比較

車種	生産		受入 (台)	出荷			3月末在庫 (台)
	台数	金額 (百万円)		販売		その他(台)	
				台数	金額 (百万円)		
平25.1～3 軽快車	118,314	2,819	449,778	476,785	7,857	135,617	100,881
平24.1～3 軽快車	163,516	3,589	537,062	557,060	9,035	167,041	118,776
変化 %	-27.6	-21.5	-16.3	-14.4	-13.0	-18.8	-15.1
平25.1～3 電動アシスト車	112,174	7,708	80,529	109,041	7,481	78,362	27,566
平24.1～3 電動アシスト車	116,341	8,368	80,962	108,907	7,267	78,725	32,642
変化 %	-3.6	-7.9	-0.5	0.1	2.9	-0.5	-15.6
平25.1～3 その他	30,263	779	135,719	124,993	2,018	28,490	77,973
平24.1～3 その他	28,569	731	173,065	145,786	2,158	27,458	104,441
変化 %	5.9	6.6	-21.6	-14.3	-6.5	3.8	-25.3
平25.1～3 全車種計	260,751	11,304	666,026	710,819	17,356	242,469	206,420
平24.1～3 全車種計	308,426	12,688	791,089	811,753	18,461	273,224	255,859
変化 %	-15.5	-10.9	-15.8	-12.4	-6.0	-11.3	-19.3

出典：経済産業省生産動態統計調査、分析：一般財団法人自転車産業振興協会  
尚、四捨五入の関係で合計が一部合致しない。

「受入」台数についてみると、平成25年1～3月の全車種の「受入」台数は平成24年1～3月の「受入」台数に比べ15.8%減少した。車種別には、幅広い車種を含んでいる「その他」のものが21.6%と大きく減少した他、「軽快車」も16.3%減少している。「電動アシスト車」の「受入」台数の減少は0.5%と僅かである。「受入」台数の多くは自転車生産企業が輸入した自転車台数と推測される。「生産」台数と比較し「受入」台数はかなり多くなっている。

次に「出荷・販売」台数についてみると、平成25年1～3月の全ての車種の「出荷・販売」台数は平成24年1～3月のそれに比べ12.4%減少した。車種別にみると、「軽快車」及び「その他」が各々14%強減少した一方で、「電動アシスト車」は0.1%と僅かに増加した。「出荷・販売」金額については、全車種では6%減少し、車種別では「軽快車」が13%、「その他」が6.5%各々減少した一方で、「電動アシスト車」は2.9%増加した。

平成25年1～3月の全車種の「出荷・その他」台数は、平成24年1～3月のそれに比べ11.3%減少した。車種別にみると、「軽快車」が18.8%、「電動アシスト車」が0.5%各々減少した一方で、「その他」は3.8%増加した。尚、「出荷・その他」とは受託生産品を委託生産業者へ出荷する等したものである。

「月末在庫」については、平成25年3月の全車種の「月末在庫」台数は206,420台で、前年同月の255,859台から19.3%減少した。車種別には全ての車種で減少を示しており、

「軽快車」及び「電動アシスト車」が15%強減少したほか、「その他」のものも25%以上減少した。

表6に平成18年から平成25年まで過去8年間の毎年1～3月の我が国の自転車生産、出荷及び3月末在庫台数の推移を示す。

表6 我が国自転車生産企業の毎年1～3月の自転車生産・出荷及び3月末在庫の過去8年間の推移

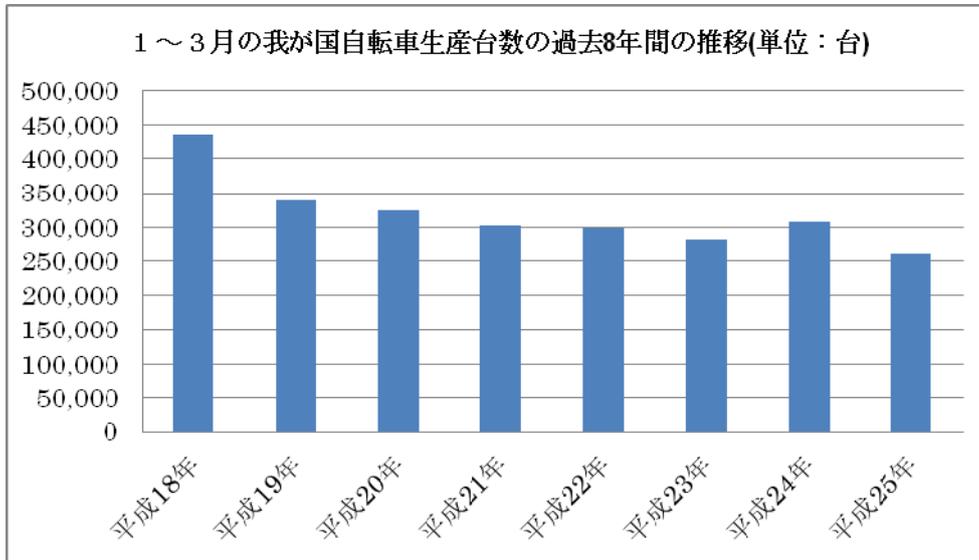
1～3月	生産			出荷			3月末在庫 台数(台)
	台数(台)	金額 (百万円)	平均単価 (円)	台数(台)	金額 (百万円)	平均単価 (円)	
平成25年	260,751	11,304	43,352	710,819	17,356	24,417	206,420
平成24年	308,426	12,688	41,138	811,753	18,461	22,742	255,859
平成23年	283,461	11,344	40,020	890,844	19,097	21,437	143,353
平成22年	299,871	10,344	34,495	857,346	17,167	20,023	197,543
平成21年	302,897	9,138	30,169	887,807	16,529	18,618	201,479
平成20年	324,543	7,697	23,716	1,016,304	15,574	15,324	215,025
平成19年	338,671	7,117	21,014	1,069,225	14,114	13,200	214,321
平成18年	435,978	8,134	18,657	1,188,506	14,653	12,329	238,679

出典：経済産業省生産動態統計調査、分析：一般財団法人自転車産業振興協会

平成25年1～3月の「生産台数」は過去8年間で最低、「生産金額」は過去8年間で3番目に多くなっている。これらの事から「生産平均単価」は過去8年間一貫して上昇を続けており、平成25年1～3月は43,352円と最高となっている。また平成25年1～3月の「出荷台数」は過去8年間で最低、「出荷金額」は過去8年間で3番目に多く、これらの事から生産の場合と同様、「出荷平均単価」も24,417円と過去8年間で最高となっている。また「生産平均単価」と「出荷平均単価」とを比べると「生産平均単価」の方が8年間一貫して高くなっている。「3月末在庫台数」は206,420台で、過去8年間で5番目に多くなっており、この推移の中では標準的な水準にある。

表6を基に平成18年から平成25年までの過去8年間の毎年1～3月の生産台数の推移をグラフで示したものが図Cである。生産台数の減少傾向が明らかに示されている。

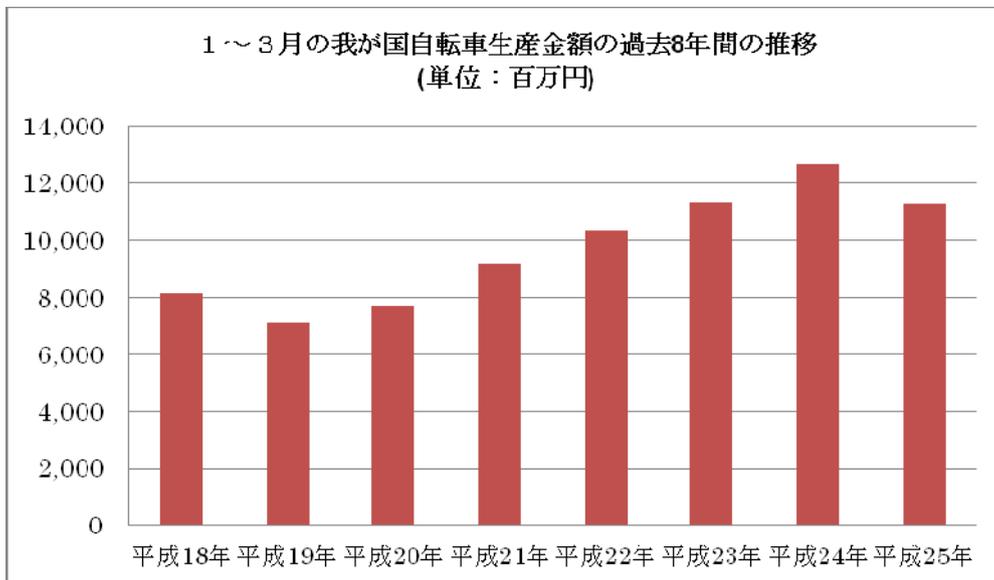
図 C



出典：経済産業省生産動態統計調査、分析：一般財団法人自転車産業振興協会

同様に、表 6 を基に平成 18 年から平成 25 年までの過去 8 年間の毎年 1～3 月の生産金額の推移をグラフで示したものが図 D である。生産金額は全体的には増加傾向ではあるものの、平成 25 年は平成 23 年を若干下回る水準となっている。

図 D



出典：経済産業省生産動態統計調査、分析：一般財団法人自転車産業振興協会

### 3. 我が国の自転車輸入

表7は平成25年1～3月の全ての車種の自転車の我が国への輸入の様相について前年同期と比較しながら示したものである。総台数は12%減少したものの、総CIF金額が3.5%増加した結果、平均CIF単価は平成24年1～3月の8,419円から平成25年1～3月の9,895円へと17.5%上昇した。

表7 平成25年1～3月の我が国の自転車輸入 平成24年1～3月との比較

	総台数(台)	総CIF金額(千円)	平均CIF単価(円)
平成25年1～3月	2,373,370	23,483,404	9,895
平成24年1～3月	2,695,555	22,695,025	8,419
変化	-322,185	788,379	1,476
変化%	-12.0	3.5	17.5

出典：財務省貿易統計、分析：一般財団法人自転車産業振興協会

表8は平成25年1～3月の我が国の自転車輸入に関し、車種別の状況を示したものである。

表8 平成25年1～3月 我が国の車種別自転車輸入

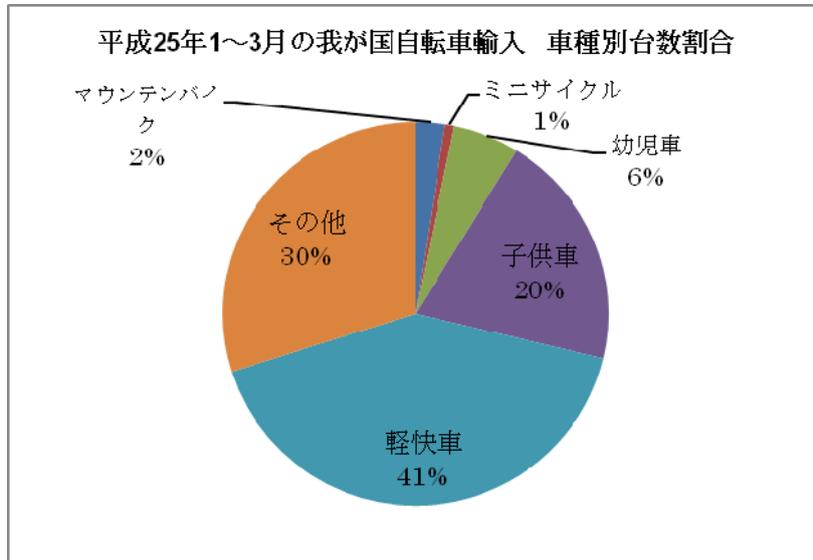
関税番号及び車種	台数(台)	総CIF金額(千円)	平均CIF単価(円)
8712.00100 マウンテンバイク	57,955	1,193,839	20,599
8712.00211 ミニサイクル	18,262	259,645	14,218
8712.00218 幼児車	131,559	780,652	5,934
8712.00219 子供車	474,305	3,837,641	8,091
8712.00291 軽快車	982,149	8,947,299	9,110
8712.00299 その他	709,140	8,464,328	11,936
計	2,373,370	23,483,404	9,895

出典：財務省貿易統計、分析：一般財団法人自転車産業振興協会

8712.00100に分類される「マウンテンバイク」は、平均CIF単価が20,599円と最も高くなっている。8712.00211に分類される「ミニサイクル」の台数は18,262台と6つの輸入車種区分の中では最低であるが、平均CIF単価は14,218円と2番目に高くなっている。高価な小径車がこの区分の中に含まれているものと思われる。また8712.00291に分類される「軽快車」はこの期間の輸入台数全体の41%を占め最も台数が多く、平均CIF単価は9,110円となっている。更に8712.00299に分類される「その他」にはスポーツ車や外装変速機付軽快車等が含まれるが、台数及び総CIF金額とも6つの輸入車種区分の中で2番目に多くなっており、平均CIF単価は11,936円である。

表8を基に、平成25年1～3月の我が国自転車輸入について車種別の台数割合をグラフにより示したものが図Eである。前述の通り「軽快車」が41%を占め、次いで「その他」が30%を占めている。

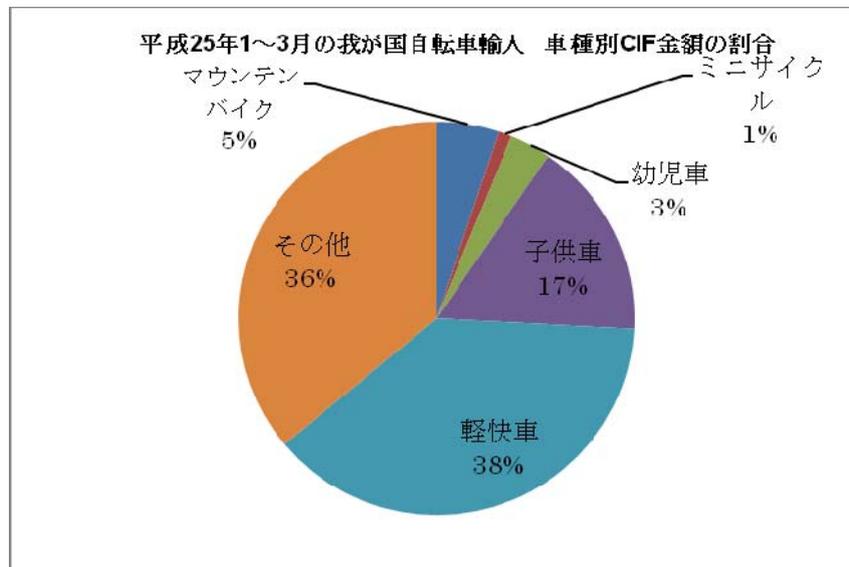
図 E



出典：財務省貿易統計、分析：一般財団法人自転車産業振興協会

同様に表 8 を基に、平成 25 年 1～3 月の我が国自転車輸入について車種別の金額割合をグラフにより示したものが図 F である。「軽快車」が 38%、「その他」が 36%と大きな割合を占め、これら二つで 74%と圧倒的となっている。

図 F



出典：財務省貿易統計、分析：一般財団法人自転車産業振興協会

尚、前回にも述べたが輸入における関税番号及び車種は以下の通り分類されている。

表 9 輸入における車種区分 関税番号

品名区分／関税番号	車 種
8712.00100 マウンテンバイク	・MTB(Vブレーキ・Diskブレーキ装着車を含む) ・クロスバイク
8712.00211 ミニサイクル	・ミニサイクル ・小径折りたたみ車 ・BMX
8712.00218 幼児車	・幼児車(12～16吋) ・乗用玩具(12吋二輪車) ・一輪車(12～16吋)
8712.00219 子供車	・子供車(18～24吋) ・Jr.MTB(18～24吋) ・一輪車(18～24吋)
8712.00291 軽快車	・軽快車(外装変速機付は含まない) ・シングル、内装変速機付スポーツ車
8712.00299 その他	・スポーツ車 ・外装変速機付軽快車 ・Jr.MTB(26吋)

出典：一般財団法人自転車産業振興協会

表 10 は平成 25 年 1～3 月の車種別の我が国への自転車輸入について昨年同期と比較しながら示したものである。

表 10 我が国の車種別自転車輸入 平成 25 年 1～3 月と平成 24 年 1～3 月との比較

1～3 月 車種	平成 25 年		平成 24 年		変化 %	
	台数	CIF 金額(千円)	台数	CIF 金額(千円)	台数	CIF 金額
8712.001 マウンテンバイク	57,955	1,193,839	87,062	1,613,136	-33.4%	-26.0%
8712.0021 ミニサイクル	18,262	259,645	24,657	250,951	-25.9%	3.5%
8712.0022 幼児車	131,559	780,652	171,652	831,196	-23.4%	-6.1%
8712.0022 子供車	474,305	3,837,641	565,515	3,815,207	-16.1%	0.6%
8712.0029 軽快車	982,149	8,947,299	1,119,749	8,523,503	-12.3%	5.0%
8712.003 その他	709,140	8,464,328	726,920	7,661,032	-2.4%	10.5%
計	2,373,370	23,483,404	2,695,555	22,695,025	-12.0%	3.5%
平均単価(円)		9,895		8,419		17.5%

出典：財務省貿易統計、分析：一般財団法人自転車産業振興協会

台数では全ての車種で減少している。このうち「マウンテンバイク」は 33.4%も輸入台数が減少している。また輸入台数の最も多い「軽快車」は平成 24 年 1～3 月の 1,119,749 台から平成 25 年 1～3 月の 982,149 台へと 137,600 台、12.3%減少した。

金額では台数でも大きく減少した「マウンテンバイク」が26%減少し「幼児車」も6.1%減少した。一方「ミニサイクル」は3.5%、「子供車」は0.6%、「軽快車」は5%、「その他」は10.5%各々金額が増加したため、全車種の総CIF金額は前述の通り3.5%増加している。

表11は毎年1～3月の我が国への自転車輸入の過去13年間の推移を示したものである。

表11 毎年1～3月の我が国の自転車輸入の過去13年間の推移 全車種

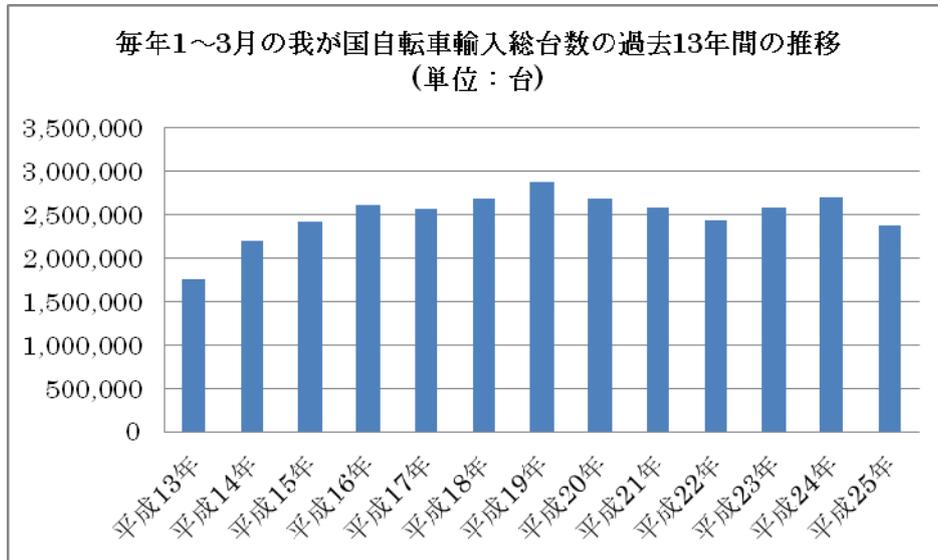
年	総輸入台数	総CIF金額(千円)	平均CIF単価(円)
平成25年	2,373,370	23,483,404	9,895
平成24年	2,695,555	22,695,025	8,419
平成23年	2,580,156	20,269,931	7,856
平成22年	2,428,569	19,462,552	8,014
平成21年	2,576,224	22,705,053	8,813
平成20年	2,684,045	22,666,563	8,445
平成19年	2,877,065	23,273,025	8,089
平成18年	2,670,732	19,943,370	7,467
平成17年	2,563,991	16,336,547	6,372
平成16年	2,603,967	15,845,606	6,085
平成15年	2,414,612	16,396,236	6,790
平成14年	2,196,940	16,621,325	7,566
平成13年	1,767,054	13,782,947	7,800

出典：財務省貿易統計、分析：一般財団法人自転車産業振興協会

平成25年1～3月の総輸入台数は過去13年で3番目に少なくなっており、平成14年以來の少なさである。1月時点では過去13年間で4番目に多かったため、この間の変化は大きい。一方、1～3月の総CIF金額は過去13年間で最高を記録している。これらの事から平均CIF単価は9,895円となり、これまでの最高であった平成21年1～3月の8,813円を1,000円以上も上回り、過去13年間で最高となっている。

表11を基に平成13年から平成25年までの過去13年間の毎年1～3月の輸入総台数の推移をグラフにより示したものが図Gである。

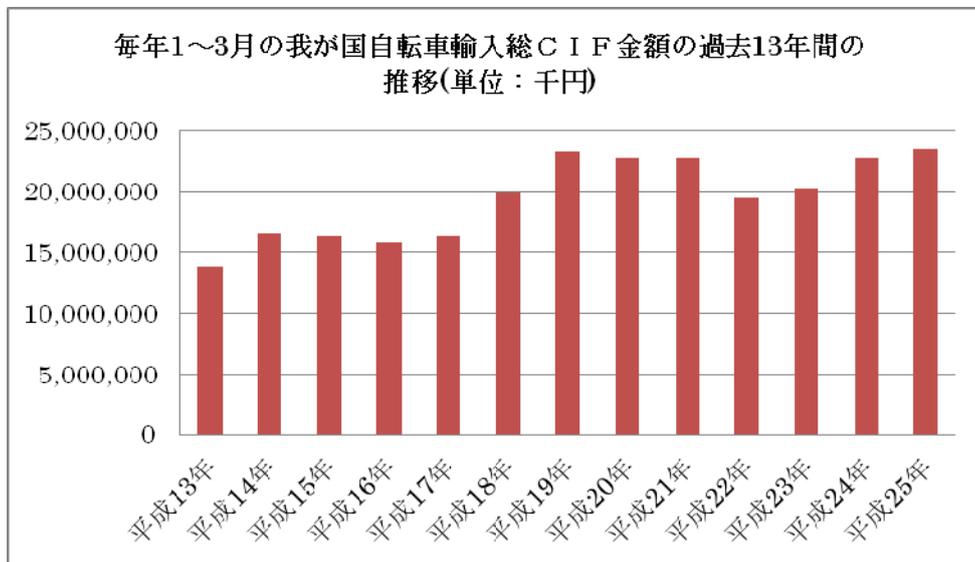
図 G



出典：財務省貿易統計、分析：一般財団法人自転車産業振興協会

同様に表 1 1 を基に平成 13 年から平成 25 年までの過去 13 年間の毎年 1～3 月の輸入総 CIF 金額の推移をグラフにより示したものが図 H ある。

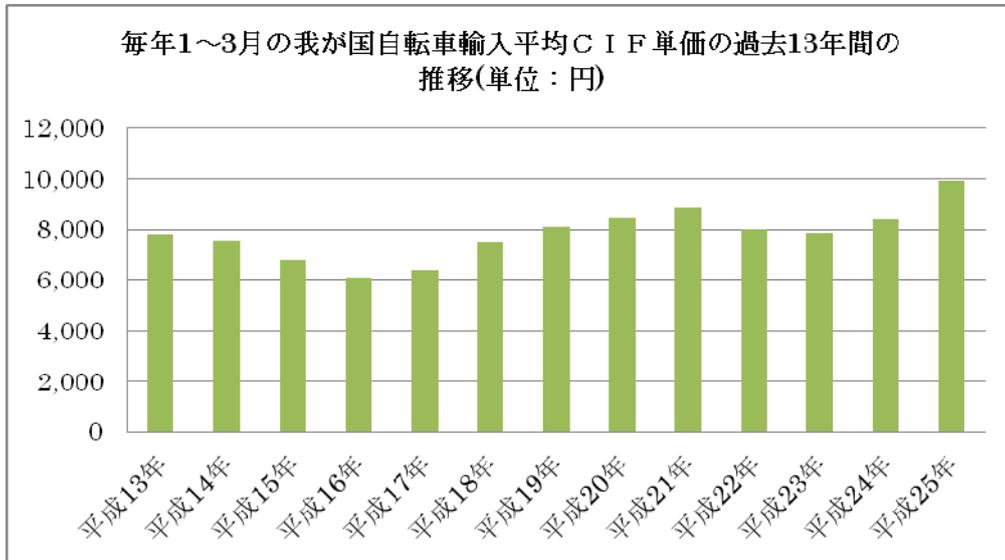
図 H



出典：財務省貿易統計、分析：一般財団法人自転車産業振興協会

更に表 1 1 を基に平成 13 年から平成 25 年までの過去 13 年間の毎年 1～3 月の輸入平均 CIF 単価の推移をグラフにより示したものが図 I ある。

図 1



出典：財務省貿易統計、分析：一般財団法人自転車産業振興協会

本年1～3月の総輸入台数の過去13年間における位置付けが本年1月から大きく変わったので、総輸入台数の月毎の推移を調べてみると表12のようになる。1月の総輸入台数は過去13年間で4番目に多かった事は前述の通りであるが、本年2月の総輸入台数は729,345台となり過去13年間で少ない方から5番目(多い方から9番目)となり位置付けが下がった。更に本年3月の総輸入台数は997,586台で、平成13年に次ぐ少なさとなり一層位置付けが下がった。過去13年間の総輸入台数の推移の中で、本年2月・3月の相対的位置付けの低下により、本年1～3月の総輸入台数の水準が下がった事がわかる。

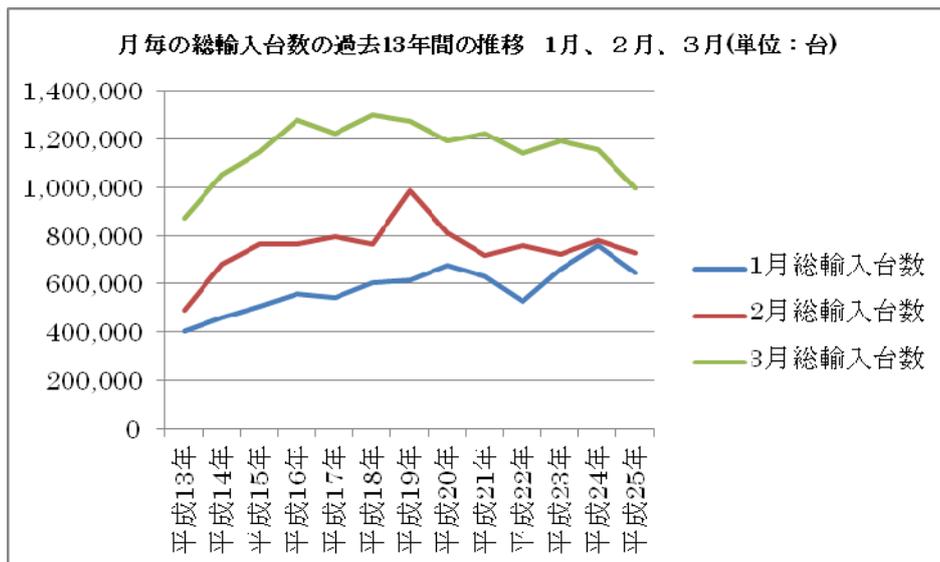
表 1 2 月毎の総輸入台数の過去13年間の推移 1月、2月、3月

年	1月総輸入台数	2月総輸入台数	3月総輸入台数
平成25年	646,439	729,345	997,586
平成24年	759,838	779,645	1,156,072
平成23年	661,234	725,936	1,192,986
平成22年	529,116	759,113	1,140,340
平成21年	631,533	717,828	1,226,863
平成20年	679,048	809,921	1,195,076
平成19年	613,892	988,006	1,275,167
平成18年	602,545	765,063	1,303,124
平成17年	541,343	796,348	1,226,300
平成16年	556,120	767,570	1,280,277
平成15年	504,267	764,381	1,145,964
平成14年	462,594	682,561	1,051,785
平成13年	402,134	489,191	875,729

出典：財務省貿易統計、分析：一般財団法人自転車産業振興協会

表12の月毎の総輸入台数の過去13年間の推移をグラフにより示したものが図Jである。まず青いラインを見ると本年1月の総輸入台数は過去13年間の毎年1月の推移の中で上位に位置する事がわかる。次に赤いラインを見ると、本年2月には過去13年間の毎年2月の総輸入台数の位置付けが中程になった事がわかる。そして緑のラインを見ると、本年3月は過去13年間の毎年3月の総輸入台数の推移の中で下位に位置している事が示されている。尚この図からは、毎年1月・2月・3月と次第に輸入台数が増えてゆき、この順序が逆転した事は過去13年の中では一度もない事も併せて示されている。

図J



出典：財務省貿易統計、分析：一般財団法人自転車産業振興協会

表13は、毎年1～3月の我が国の車種別の自転車輸入台数の過去13年間の推移について示したものである。

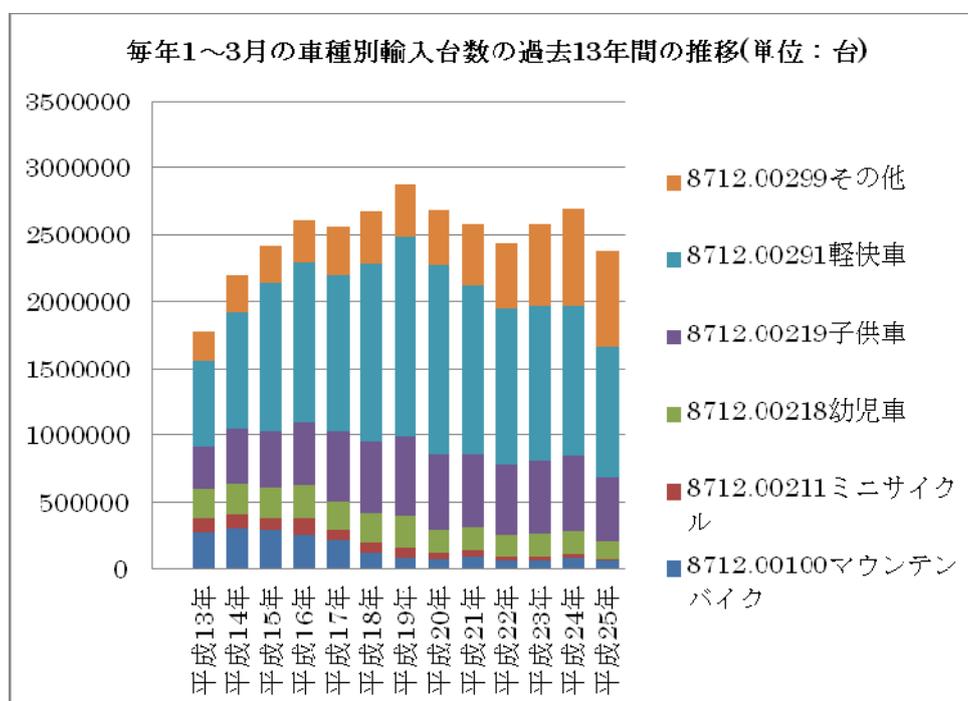
表13 毎年1～3月の我が国の車種別自転車輸入台数の過去13年間の推移

	8712.00100 マウンテン バイク	8712.00211 ミニ サイクル	8712.00218 幼児車	8712.00219 子供車	8712.00291 軽快車	8712.00299 その他	計
平成25年	57,955	18,262	131,559	474,305	982,149	709,140	2,373,370
平成24年	87,062	24,657	171,652	565,515	1,119,749	726,920	2,695,555
平成23年	63,603	33,548	164,291	551,849	1,150,866	615,999	2,580,156
平成22年	59,489	38,452	156,636	530,318	1,160,841	482,833	2,428,569
平成21年	97,986	50,097	165,108	551,110	1,258,515	453,408	2,576,224
平成20年	78,379	47,352	167,448	563,993	1,416,437	410,436	2,684,045
平成19年	88,125	75,520	231,083	591,808	1,503,365	387,164	2,877,065
平成18年	121,249	75,377	215,316	537,198	1,334,396	387,196	2,670,732
平成17年	219,677	72,011	219,366	518,450	1,166,989	367,498	2,563,991
平成16年	257,211	120,358	247,804	464,691	1,202,050	311,853	2,603,967
平成15年	288,655	86,808	235,896	419,564	1,113,661	270,028	2,414,612
平成14年	301,408	100,435	235,384	405,757	876,882	277,074	2,196,940
平成13年	269,870	108,893	221,267	315,333	641,858	209,833	1,767,054

出典：財務省貿易統計、分析：一般財団法人自転車産業振興協会

平成 25 年 1～3 月の「マウンテンバイク」の輸入台数は 57,955 台、「ミニサイクル」の輸入台数は 18,262 台、「幼児車」の輸入台数は 131,559 台で、これら 3 つの車種については過去 13 年間で輸入台数が最低となっている。一方「子供車」の本年 1～3 月の輸入台数は 474,305 台で過去 13 年の推移の中ではほぼ中程、「軽快車」の本年 1～3 月の輸入台数は 982,149 台で平成 14 年 1～3 月以来 11 年振りに 100 万台を割り込み過去 13 年の推移の中では下から 3 番目と、これも低迷している。他方「その他」の自転車の本年 1～3 月の輸入台数は 709,140 台で、過去 13 年の推移の中では上位 2 位となっており、スポーツ車の需要が引き続き好調である事がわかる。これらの模様をグラフで示したものが図 K である。

図 K



出典：財務省貿易統計、分析：一般財団法人自転車産業振興協会

平成 25 年 1～3 月の我が国の自転車輸入に関し、その主要供給元を示したものが表 1 4 である。

表 1 4 平成 25 年 1～3 月 我が国の完成自転車輸入 主要供給元

供給元	総台数	総 CIF 金額 (千円)	平均 CIF 単価(円)
中華人民共和国	2,299,253	20,536,828	8,932
台湾	66,781	2,526,809	37,837
その他	7,336	419,767	57,220
計	2,373,370	23,483,404	9,895

出典：財務省貿易統計、分析：一般財団法人自転車産業振興協会

引き続き「中華人民共和国」が最大の供給元である事は明らかである。総台数の96.9%、総CIF金額の87.4%を占めている。平均CIF単価は8,932円であった。これに次ぐのが「台湾」で、台数の2.8%、総CIF金額の10.8%を占め、平均CIF単価は37,837円で、「中華人民共和国」産のものものの4.2倍である。これら2つの国・地域で総台数の99.7%、総CIF金額の98.2%を占めている。

#### 4. 国内向け数量

我が国の完成自転車輸出はその殆ど全てが中古車の途上国向け輸出であるため、「生産台数」と「輸入台数」の合計が「国内向け数量」と考えられる。毎年1～3月の「国内向け数量」の過去8年間の推移を表15に示す。平成25年1～3月の「国内向け数量」は過去8年間の推移の中で最低となっている。「生産台数」も「輸入台数」も過去8年間で最低となっているためである。また参考まで国内生産の比率を示したが、これも過去8年間の最低数値と並んでいる。

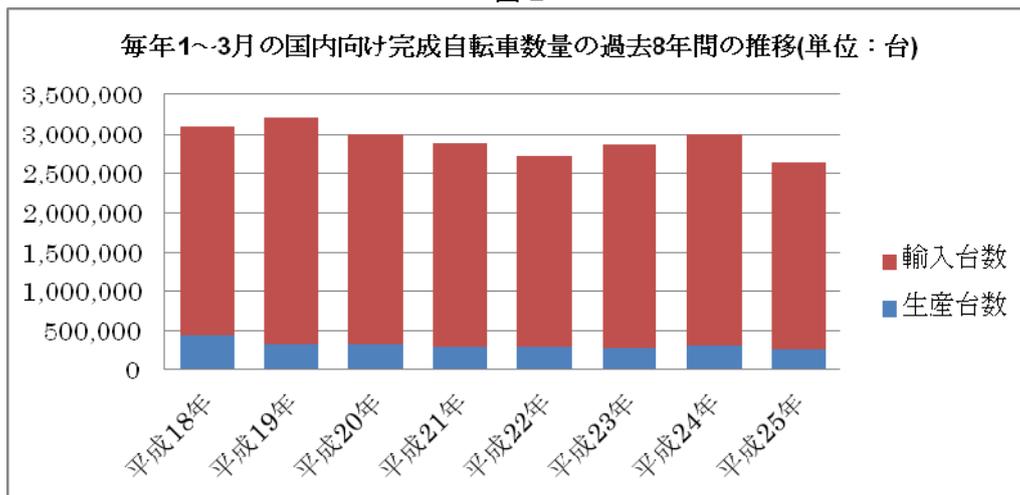
表15 毎年1～3月の我が国完成自転車の国内向け数量の過去8年間の推移

年	生産台数	輸入台数	国内向け数量	国内生産の比率%
平成25年	260,751	2,373,370	2,634,121	9.9
平成24年	308,426	2,695,555	3,003,981	10.3
平成23年	283,461	2,580,156	2,863,617	9.9
平成22年	299,871	2,428,569	2,728,440	11.0
平成21年	302,897	2,576,224	2,879,121	10.5
平成20年	324,543	2,684,045	3,008,588	10.8
平成19年	338,671	2,877,065	3,215,736	10.5
平成18年	435,978	2,670,732	3,106,710	14.0

出典：経済産業省生産動態統計調査、財務省貿易統計、分析：一般財団法人自転車産業振興協会

これらの模様をグラフにより示したものが図Lである。

図L



出典：経済産業省生産動態統計調査、財務省貿易統計、分析：一般財団法人自転車産業振興協会

## 5. 我が国の自転車輸出

我が国の自転車輸出は途上国向けの中古自転車が殆ど全てである。平成 25 年 3 月の我が国自転車輸出の主な仕向け先を表 1 6 に示す。平均 FOB 単価を見ればこれらの自転車輸出は中古自転車輸出である事は明らかである。

表 1 6 平成 25 年 3 月 主要仕向け先別の我が国の完成自転車輸出

仕向け先国・地域	総台数	総 FOB 金額 (千円)	平均 FOB 単価(円)
ガーナ	62,636	85,830	1,370
カンボジア	41,910	51,029	1,218
ミャンマー	35,146	40,226	1,145
イラン	28,229	27,260	966
ナイジェリア	25,249	42,664	1,690
フィリピン	15,536	20,249	1,303
タンザニア	15,447	20,939	1,356
タイ	13,414	21,351	1,592
アフガニスタン	13,080	13,462	1,029
香港	9,299	12,296	1,322
その他	25,830	49,788	1,928
計	285,776	385,094	1,348

出典：財務省貿易統計、分析：一般財団法人自転車産業振興協会

表 1 7 に平成 13 年から平成 25 年までの過去 13 年間の毎年 1～3 月の我が国自転車輸出の推移を示す。総台数は増加傾向にあり平成 25 年 1～3 月は過去 13 年間で最高となっている。本年 1～3 月の総 FOB 金額も過去 13 年間で最高となっている。本年 1～3 月の平均 FOB 単価は 1,299 円で、過去 13 年の推移の中では標準的な水準である。

表 1 7 毎年 1～3 月の我が国自転車輸出の過去 13 年間の推移 全車種

年	総台数	総 FOB 金額 (千円)	平均 FOB 単価(円)
平成 25 年	722,752	939,012	1,299
平成 24 年	699,859	901,501	1,288
平成 23 年	557,747	743,842	1,334
平成 22 年	555,117	745,569	1,343
平成 21 年	492,380	673,801	1,368
平成 20 年	554,131	928,910	1,676
平成 19 年	386,012	467,747	1,212
平成 18 年	304,033	323,202	1,063
平成 17 年	224,636	256,521	1,142
平成 16 年	236,936	281,915	1,190
平成 15 年	161,964	213,115	1,316
平成 14 年	152,603	204,930	1,343
平成 13 年	133,335	205,255	1,539

出典：財務省貿易統計、分析：一般財団法人自転車産業振興協会

以 上